

2022年度 学校自己点検・自己評価(最終評価)

実施日 2023年2月15日 自己点検ワーキングメンバー
 第三者評価 2023年3月10日 訪問看護ステーション菜桜所長 長島 美雪
 (前 沼津市立看護専門学校 教務長)

学校関係者評価 2023年3月20日 学校評価委員会

静岡医療センター附属静岡看護学校

看護学校(三年課程)自己点検・自己評価表			自己点検・自己評価			第三者評価			
大項目	中項目	評価対象項目(質問項目)	自己点検・自己評価			第三者評価			
			できている	一部できている	できていない	できている	一部できている	できていない	
1 教育理念・目的・目標	1) 学校の教育理念・目的・目標の設定	(1) 教育理念・教育目的は法との整合性がある。	○			最終評価	○		第三者評価
		(2) 教育理念・目的を明文化している	○				○		
		(3) 教育理念・目的は看護教育についての考え方を示している(看護学・看護基礎教育の本質) 自養成所の教育上の特色を明示している	○				○		
		(4) 看護専門職(専門性・自律性・倫理性・判断力・実践力)が明示されている	○				○		
		(5) 教育観と学生観が明示されている	○				○		
		(6) 教育理念・目的は人材育成の内容と一致している	○				○		
		(7) 教育理念・目的・目標を学生にとって学習の指針になるように具体的に示している。	○				○		
	2) 教育理念・目的・目標の達成	(8) 教職員は教育理念・目的・目標について認識し、共有している	○				○		
		(9) 教職員は、教育理念・目的・目標の達成に向けて努力している。	○				○		
		(10) 教育理念・目標は学生に浸透している	○				○		
		(11) 卒業時点に於いて期待する姿になっているかを評価している	○				○		
		(12) 卒業時点に於いて期待する姿になっているかを評価している	○				○		
		(13) 教育理念・目的・目標と教育課程の考え方が一貫している	○				○		
2 教育課程	1) 教育課程の立案	(14) 教育理念・目標は社会変化、ニーズに対応し年一回見直ししている	○			○			
		(15) 教育課程は看護学の内容・求める学修の到達及び学生の成長発達について明確な考え方と根拠を持って編成されている	○			○			
		(16) 教育理念・目的・目標にあった科目設定をしている	○			○			
		(17) 教育課程・授業・評価に至り一貫性がある	○			○			
		(18) 科目設定には学校の特色を盛り込んでいる	○			○			
		(19) 科目設定には学習者・社会のニーズを考慮している	○			○			
		(20) 科目の一般目標・行動目標は明確に設定している	○			○			
	2) 教育課程の効果的編成	(21) 指定規則に合致した科目と単位・時間を設定している	○			○			
		(22) 教育理念・目標にあった順序性で科目を配列をしている	○			○			
		(23) 科目の位置づけと科目間の関連性を明示している	○			○			
		3) 教育課程の点検・見直し	(24) 教育課程の評価・見直しは定期的(年1回)に行っている	○			○		
			(25) 教育課程の見直しは学生・講師・教員の意見を反映している	○			○		
			(26) 教育課程を評価する体系が整っている	○			○		
(27) 教育課程評価結果の活用において、倫理的配慮を行っている	○				○				
3 教育活動 ・ 教育指導のあり方	1) 学習支援(ガイダンス)	(28) 年度初めにカリキュラムガイダンスを行っている	○			○			
		(29) 学生便覧は内容・構成が工夫して作成され、学生が活用している	○			○			
		(30) シラバスが作成され活用について学生に説明している	○			○			
		(31) 単位履修の方法とその制約について教師・学生の双方がわかるように明示している	○			○			
		(32) 単位履修の方法は学生の単位履修を支援するものとなっている	○			○			
		2) 授業の計画的遂行・調整	(33) 授業計画に基づいて授業は実施している	○			○		
			(34) 時間割の進捗は、授業計画通りに行われている	○			○		
	(35) 授業形態(講義・演習・実習)は、授業内容に応じて選択している		○			○			
	(36) 授業内容は精選され、学生のリアリティに応じて構成されている		○			○			
	(37) 科目毎の授業内容を整理し、担当者へ周知している		○			○			
	(38) 1クラスの学生数は40人以下の構成である		○	○		○			
	3) 授業科目の担当・時間	(39) 科目を担当する講師は、その分野を教授するのにふさわしい人が担当している	○			○			
		(40) 教員が専門性を発揮できるように、教員の担当科目と時間数を配分している	○			○			
(41) 教員一人当たりの週授業時間は15時間以内である		○			○				
(42) 教員一人当たりの週授業時間は15時間以内である		○			○				

看護学校(三年課程)自己点検・自己評価表			自己点検・自己評価			第三者評価				
大項目	中項目	評価項目	できている	一部できている	できていない	最終評価	できている	一部できている	できていない	評価
		評価対象項目(質問項目)								
4	4) 教育方法の工夫・研究	(42) 教員の実習担当時間数は3時間に1時間程度の準備時間が見込まれている	○			<p>コロナ禍ではあるが、昨年度に引き続き、ICT環境の改善に努め、講義については授業進度に則り実施できている。授業形態は遠隔授業を取り入れ、状況により内容・方法を検討して学びにつなげている。実習は学内実習に切り替わる領域があり、指導計画をたて目標達成できるように進めている。</p> <p>講師は、科目担当するに相応しい資格、経験を有する者が授業をしている。また、医師が担当する講義分野をJNP(診療看護師)が行うことについて、静岡県から可能であることが示され、解剖生理学(循環器・消化器)をJNPが講義をしている。看護の視点を持ちながら、解剖生理学の知識を教授いただくことで、看護に繋がられている。</p> <p>また、成人看護学演習Ⅱ終末期看護では、がん性疼痛認定看護師の講義も開始となり、専門性の高い講師陣となっている。</p> <p>各科目や実習を担当する教員が責任を持ち、日々教材研究をしながら授業案を作成している。また教員会議時に講義や演習の授業案を共有し、さらに演習前には協力教員とともに事前調整をして助言し合いながら内容を深めている。</p> <p>国立病院機構東海北陸グループ内の看護学校が合同で行っている授業研究をとおりも教材研究を深めている。</p> <p>母体病院のみならず、県内および近隣の国立病院機構の病院や設置主体の施設など、実習目標・内容に見合った施設を確保できている。</p> <p>実習では、実習指導者・師長・教員の3者における役割分担を提示している。それに基づいて指導ができるように意識づけをしていき、定着している。今までは、実習要綱の中に指導する内容も記載してあったが、「実習指導要綱」として整理し、効果的な実習指導を行うことができるよう取り組んでいる。</p>	○			<p>進度表とともに看護学の授業では詳細なシラバス(コマシラバス)が作成されており、順序性を考えた授業が進められるようになっている。年度当初に作成された授業の進行具合は、学科担当者により随時確認されている。</p> <p>昨年度に続き校内のICT環境の整備に努め、有線LANとWi-FiおよびWeb回線を充実させ、パソコンの更新、権限取得など使用にあたってのシステム構築まで行っている。その結果、各教室で遠隔授業ができ、コロナ禍であったが、科目間の順序性を崩すことなく授業を行えている。</p> <p>看護技術演習では演習サポート教員を配置し、学生が理解しやすいよう少人数ずつの指導をしている。事例展開や、グループワーク、ロールプレイなどを取り入れ、学生が主体的に考え学ぶ授業形態が導入されている。また、一人の教員に負担がかからず、実習指導期間に授業等の準備時間が確保できるよう、教務助手の配置や実習担当場所の配慮などを行い、教員が効果的な指導ができるよう工夫されている。</p> <p>国家試験対策を1年次から年次ごとに学習内容を定め計画的に進めている。</p> <p>授業研究が行われ、アクティブラーニングや反転授業の取り組みなど、授業の工夫がされ、教員会議などで情報共有がされている。</p>
		(43) 教員が自ら成長出来るよう、自己研鑽のシステムを整えている	○							
		(44) 学生が自主的に考え、学習することが可能な授業形態が導入されている(少人数教育・ゼミなど)	○							
		(45) 視聴覚教育機器・教材の真と重は十分に、効果的に活用されている	○							
		(46) 効果的な教育方法について、検討の場をもっている(学内外)	○							
		(47) 備品は古帳記載がされ、定期的な点検や購入計画がされている	○							
		(48) 教育において日常的に教材研究を行っている	○							
		5) 臨地実習施設	(49) 実習科目の目標・内容に見合った実習施設を確保している	○						
	(50) 実習施設は養成所の教育理念、教育目的、教育目標を理解している		○							
	(51) 実習施設は学生の看護実践を支援する体制を整えている		○							
	(52) 実習施設は実習目的を果たすために適切・妥当であるか定期的に見直している		○							
	6) 授業評価	(53) 実習指導者は実習要項をもとに、実習指導案を立案・実施・評価している	○							
		(54) 実習指導者と教員は、役割分担を明確にして指導している	○							
		(55) 教員は授業終了時に、評価表による学生からの評価を実施している	○							
		(56) 教員間での授業評価が行われている	○							
	7) 単位互換	(57) 教員自身による自己評価を実施している	○							
		(58) 評価結果に基づいて、実際に授業を改善している	○							
		(59) 評価結果活用システムが明確である	○							
		(60) 大学・短大・専修学校への単位互換が可能な科目設定・時間設定である	○							
	8) 成績評価・単位認定	(61) 大学(短大)卒の入学生に単位の認定制をとっている	○							
		(62) 評価の方法は試験・出席・学習状況・レポートにより行われている	○							
		(63) 単位認定のための評価基準と方法を公表している	○							
		(64) 進級・進度の基準を示し適用している	○							
		(65) 履修認定会議・進級判定会議は定期的に開催している	○							
4 組織・管理運営	1) 学校の組織と関連組織の整備	(66) 教員組織、事務組織は専任者が配置され、運営しやすい組織図ができている	○							
		(67) 教員組織は運営に必要な人数と職種が配置されている	○							
		(68) 教員は、看護教員養成課程を修了している。	○							
		(69) 教職員の仕事、資格審査、任免、昇格等について明確になっている	○							
		(70) 事務組織は運営に必要な人数が配置されている	○							
		(71) 各職員が命令系統に沿ってその役割を果たしている	○							
		(72) 教員の人事について副学校長・教育主事は意見を具申している	○							
		(73) 管理者は教員に将来像を構想として示している	○							
	2) 教員人事の適正配置	(74) 講師や実習指導者は明示した資格要件を元に選考している	○							
		(75) 教員は看護学の専門領域毎に配置できている	○							
	3) 職員の職務分掌	(76) 実習調整者は専任で配置されている	○							
		(77) 教務助手は十分な臨床経験を有しているか	○							
		(78) 職務分掌は作成している	○							
	4) 会議への参加運営	(79) 職務分掌に沿って学校職員は各々の役割を果たしている	○							
(80) 業務内容は効果的な職務遂行ができるよう適宜見直している		○								
(81) 構成員として幹部会議に出席し、必要時意見を述べている		○								
(82) 構成員として管理会議に出席し、必要時意見を述べている		○								
5) 学籍の管理	(83) 学校運営会議は定期的に開催し機能している	○								
	(84) 教員会議は月2回以上定期的に開催している	○								
	(85) 講師会議は定期的に開催している	○								
6) 事業計画	(86) 学籍簿は学籍の記録、履修状況が正確に記載され、証明機能を備えている	○								
	(87) 学籍簿は保管が適切になされ、秘密が守られている	○								
6) 事業計画	(88) 学校の事業計画を立てている	○								
	(89) 事業計画は病院の全体計画の中に適切に位置づけられている	○								
	(90) 中・長期目標の予算計画が立てられている	○								

看護学校(三年課程)自己点検・自己評価表			自己点検・自己評価			第三者評価				
大項目	中項目	評価対象項目(質問項目)	できて	一部できて	できていない	最終評価	できて	一部できて	できていない	評価
			いる	いる	ない		いる	いる	ない	
7) 予算の執行	7) 予算の執行	(91)年間の予算計画・執行状況を把握し、必要時修正している	○				○			
		(92)職員は歳入歳出の状況を把握している	○				○			
	8) 経営意識	(93)職員全員が経営意識をもっている	○				○			
		(94) 在学生は定員の90%以上を充たしている			○			○		
		(95)職員は歳出削減に向けて努力している	○				○			
5) 学生生活への支援	1) 健康管理	(96) 定期的に健康診断を実施している	○			年1回春に、健康管理規定に基づき健康診断を実施している。健診結果後は学校医の指示に従い、必要に応じて学生に健康管理の支援を行っている。定期的に面接を実施し、メンタルヘルスチェックも年に2回実施すると共に、「心理的バイタルサイン」を行い、心身の健康管理を実施していくよう支援している。夏季や冬季での季節性の感染症対策等に関する早期からの指導に加え、新型コロナウイルスの感染対策に向けての健康管理を教員、学生が一丸となって実施している。	○			学生の健康診断やメンタルヘルスチェックを年2回行い、専任カウンセラーを配置し、心身の健康管理を行っている。また、掃除や消毒方法など感染予防を含めた寮生活への支援も行い、幅広い健康管理を行っている。東海北陸グループ主催の学生フォーラムでは、他職種の学生との交流をもち、IPEの学習も兼ねた有効な機会を設けている。学校のホームページに同窓会のコーナーを設け、学生に周知されていることに加え、交流会へ卒業生が参加されていて、在校生が卒後のイメージをつけやすくなっている。
		(97) 学生が日常生活の健康管理ができるように指導している	○				○			
		(98) 臨地実習での感染防止の対策をとっている	○				○			
		(99) 健康記録は的確に記載し、活用している	○				○			
	2) 学生相談室、進路相談室の設置と対応	(100) 学生相談の窓口を設けていることを学生に周知している	○				○			
		(101) 学生相談の内容によって窓口(担当)を決めている	○				○			
		(102) プライバシーが保持されるシステムができています	○				○			
		(103) 学生相談の専任のカウンセラーをおいている	○				○			
	3) 課外活動・ボランティアの支援体制	(104) 課外活動に対する、教職員の支援・指導を受けることができる体制である	○				○			
		(105) ボランティア活動の支援体制ができています(情報提供、渉外、経費等)	○				○			
	4) 自治会への支援	(106) 学生自治会室(含兼用)がある	○				○			
		(107) 学生の自治活動が円滑にいくために助言・指導している	○				○			
		(108) 他校と交流の機会をもっている	○				○			
	5) 福利厚生(奨学金制度・学生宿舎・学生後援会等)	(109) 奨学金制度について学生に周知している	○				○			
		(110) 学生が学業を継続できる支援体制を多角的に整えている	○				○			
・授業料減免制度・奨学金・カウンセリング・既履修科目の認定		○			○					
・傷害保険・同窓会との連携		○			○					
・卒業、就職等の進路に関する相談、支援		○			○					
(111) 学則の中で授業料減免制度について学生に説明している		○			○					
6) 施設整備	1) 校舎の整備と管理	(114) 学生数に応じた施設基準を満たす設備がある(教室、看護学別の実習室、図書室、情報処理室、保健室、学生相談室、男女更衣室等)	○			定員は240人であり、設置基準を満たしている。校内の全ての施設利用については、授業および実習終了後も、学校の開校時間に合わせ学生が施設利用できる時間を確保している。学生ホールは、テーブル・椅子の間隔を考慮、環境クロスを設置し、感染対策を行ったうえで、学生同士が交流できるように場を提供している。それにより、卒業時評価の「落ち着ける場所がある」の評価項目が上昇している。専門領域毎に計画的に必要な図書・DVDを更新している。図書購入の際は、学生にとって学習に効果的なものだけでなく、興味・関心を引くような内容の検討をしている。	○			施設基準を満たしている。図書も学生の希望を取り入れ、興味関心のある書籍も補充されていると共に、文献検索のための医学中央雑誌も備えていて、充実している。教材の予算が確保されて購入できており、点検・整備も計画的にされている。図書館には司書役を担う職員の配置および図書管理システムで管理されている。
		(115) グループ討議等ができる演習室を有している	○				○			
		(116) 教室は視聴覚教材が使えるように整備されている	○				○			
		(117) 校内施設利用規定は作成している(含む体育館)	○				○			
		(118) 校内の施設利用は、学生の効果的な学習ができるよう配慮している	○				○			
		(119) 学生ホールは整備され、憩いの場作りができています	○				○			
	(120) 災害時を想定した設備点検・マニュアル作成がされている	○			○					
	2) 図書室の整備と管理	(121) 図書および資料は分野毎、領域毎に分類され整理されている	○				○			
		(122) 蔵書数は学生数に見合った十分な冊数である	○				○			
		(123) 専門分野は専門領域毎に計画的に増補している	○				○			
(124) 学術雑誌は指定基準以上の種類を有している		○			○					
(125) 視聴覚機器が整備されている		○			○					
(126) 図書と学術雑誌およびビデオ等の整備点検はできています		○			○					
3) 教材の整備と管理	(127) 司書を配置している	○			○					
	(128) 学生が利用しやすい時間帯に開館している	○			○					
	(129) 新刊図書の紹介をしている	○			○					
	(130) 必要な図書増備の予算計画ができています	○			○					
	(131) 文献検索のためのインターネットの設備がある	○			○					
7) 学生募集の方法	1) 学生募集の方法	(132) 教材教具は定期的に点検を行っている	○			○				
		(133) 専門領域毎に教育内容にあった教材を計画的に増備している	○			○				
		(134) 器械器具、標本、模型は学生数に見合ったものを整備している	○			○				
		(135) ビデオ等、視聴覚教材は自己学習に使用できる	○			○				
		(136) 教材購入の経費は年次毎に計画し増備している	○			○				
		(137) 学校の教育理念・目標を反映した学生募集方針を定めている	○			○				
		(138) 入学定員を明示している	○			○				
		(139) 推薦・社会人・一般入試制度の有無は明記している	○			○				

看護学校(三年課程)自己点検・自己評価表			自己点検・自己評価			第三者評価						
大項目	中項目	評価項目	できている	一部できている	できていない	最終評価	できている	一部できている	できていない	評価		
		評価対象項目(質問項目)										
れ 学 生 の 受	2) 入学者選抜方法	(140)学生の状況を察知した多様な選抜方法を検討している	○			現在、推薦入試は、指定校制としている。平成22年より社会人入試を取り入れた。一般入試においては、関東甲信越・東海北陸グループ統一試験を導入した。18歳人口減少の影響と共に2017年頃から受験者数が減少しているため、推薦入試の評定値を見直し受験者を増やした。令和3年度からは一般入試を2回に増やした。	○			推薦入試は指定校制の内容の見直し、社会人入試の実施、一般入試方法の2回に変更等学生の確保について工夫している。受験生の増加を図っていくことが今後の課題である。SNSなど若者が閲覧する方法や場所などを探索し、充実している内容を広報する活動に力を入れることを勧めたい。		
		(141) 合格基準は明確にしている	○				○					
	(142) 転入学の方法・基準を明文化している	○										
	(143) 入学試験の応募状況は定員の3倍以上である				○							
3) 学生定員の質的充足状況	(144) 合格者からの入学率は50%以上である						○					
	(145) 推薦入試の入学率は定員の40%程度である							○				
4) 学生募集に関する分析・評価体制	(146) 入学試験委員会が定期的に開催されている						○					
	(147) 志願者・合格者・入学者などの推移とその評価がなされている						○					
8 卒 業 生 の 状 況	1) 卒業生の進路	(148)卒業生の90%以上は看護職を選んでいる	○			令和4年度卒業生は、進学・就職と看護系の職種に進んでいる。病院の方が学校に訪問される際に、卒業生の状況を聞く機会があり、各施設で役割を果たすことができていると評価を得ている。期待する卒業生を育てることはできていると考える。	○			卒業時に看護実践強化演習や卒業前演習を企画・実施し卒業時の到達状況を確認し、質の高い有資格者を地域に送り出している。国家試験合格率は98.4%(令和3年度)であり、全国の合格率を上回っている。今年度の卒業生は、看護職への就職希望者は100%で、希望を達成している。卒業生像と就職先での情報交換がされていて概要は捉えられているので、今後、卒後の調査を実施し、客観的な検証をされることを勧めたい。		
		(149)卒業時点での進路状況が、分類整理されている	○									
		(150)統計資料が経年的に整理され、活用されている	○									
		(151)卒業生の就職先との情報交換や調査の実施等が出来る体制を整えている	○									
		(152)卒業、就業にあたっての進路相談・指導体制が整っている。	○									
		(153)卒業状況は入学時状況と比較している(学生数の変動等)	○									
		(154)卒業時の学生の看護実践能力を把握している。	○									
2) 資格取得(国家試験)合格状況	(156)国家試験合格状況は、全国の平均合格率を上回っている		○				○					
	(157)不合格者の背景、特性を分類し、教育活動に活かしている		○				○					
9 社 会 へ の 貢 献	1) 地域との連携と社会への啓蒙	(158)看護教育および看護の情報を公開し、広報活動を行っている	○			当校の受験を考えている学生および社会人を対象に、年に3回、オープンキャンパスと公開講座を行い、学校説明や看護の知識や技術を体験できる場を設けている。講義で、地域の民生委員に話を聞く機会を設けるなど、地域との連携に取り組んでいる。看護のグローバル化・多様な文化と看護・看護の国際協力活動についての内容を含め、国際的したを広げる取り組みを行っている。また、国際看護を経験している講師に具体的な話を聞くことで深めている。	○			ホームページに、適宜看護教育や看護の情報を公開し、限局的ではあるが学校訪問も受けつけ積極的に広報活動を行っている。公開講座とオープンキャンパスについては、コロナ禍の中でも開催方法を工夫し、年3回実施している。学校祭は、新型コロナウイルスの影響で一般公開はできなかったが、SNSを活用し、地域との関りをもつ工夫をしている。清水町の大津波警報発令時の一時避難場所として体育館を提供しており、受入のための毛布などを備えていて、地域に貢献をしている。		
		(159)学校行事は地域性を考慮して教育計画に位置づけている			○							
		(160)地域への働きかけは社会のニーズに応じた内容である			○							
	2) 近隣関連施設との連携	(161)近隣施設へのボランティア活動に積極的に参加している					○					
		(162)社会人および近隣施設での生涯教育の場として学校を開放している					○					
		(163)近隣関連施設との情報交換および連携システムができている					○					
3) 国際的視野	(164)国際的視野を広げるための授業科目を設定している				○							
	(165)国際的視野を広げるための学習ができる環境を整えている				○							
	(166)留学や海外において看護職に就くことを希望する学生に対応できる体制を整えている				○							
10 研 究 ・ 研 修 活 動	1) 研究・研修活動の財政面の整備	(167)研究費は研究計画を立案し、助成金の申請をしている	○			教員全員が授業研究を行っており、今年度は、2名の教員が国立総合病院医学会で研究発表を行った。今後も更に各教員の研究能力向上に向けた活動を行い、教育実践につながるように対策を講じる。しかし、臨床と連携した研究に取り組むことができていないため、今後の課題である。	○			医学中央雑誌に加えて、メディカルon-lineも導入され、研究に必要な文献が検索しやすい環境が整っている。研究助成費が確保され、学会参加や研修参加がしやすく、東海北陸地区グループで研究する時間も確保されている。各教員の自主性に任せた年間計画により実施でき、発表の場も設けられ、情報交換をしたり、今年度は学会で研究発表をしている点もすばらしい。現在、教員と臨床看護師との看護研究への取り組みができていないのが課題としているため、臨床と協力をしてより良いものを生み出していただきたい。		
		(168)研究に必要な設備・機器を計画的に整備している	○									
		(169)研究・研修への年間予算計画が設定されている	○									
	2) 教員の研究活動	(170)教員の研究活動を保障(時間的・財政的・環境的)している。		○								
		(171)教員の研究活動を助言・検討する体制を整えている		○								
		(172)研究に価値をおき、研究活動を教員相互で支援し合う文化的素地がある		○								
		(173)教員は専門領域の研究活動に取り組んでいる		○								
	3) 研究成果の発表	(174)教員の半数以上は年1回以上の研究発表を行っている					○					
		(175)教員は看護・教育関係の学会に所属している		○								
		(176)教員は臨床ナースと連携や交流を図り臨床看護研究に取り組んでいる						○				
		(177)教員の半数以上は研究成果を過去2年以内に公表している(学会、投稿)		○								
	4) 研修活動への積極的参加と教員の活動	(178)学校は研究成果を年報、紀要や論文集などで発刊している		○								
		(179)教員は計画的・自主的に研修に参加している		○								
(180)教員は、専門領域の臨床実習、研修を実施している			○									
(181)教員が研修に参加できるようにシステム作りをしている			○									
(182)教員は対外的に講師としての役割を果たし、活動している			○									
11 学 校 評 価	1) 自己点検・評価体制	(183)自己点検・評価のシステムが作られている	○			自己点検・自己評価は、ワーキングメンバーが他の教員と協力して実施している。その後、教員会議、運営会議、学校評価委員会で検討するなどシステム化している。	○			自己点検・自己評価については、東海北陸グループで作成・見直し、組織的に行われている。各専門学校で年度末に評価を実施し、第三者評価と合わせてホームページ上に公表している。学校関係者評価は、年度末に実施する講師会で評価結果を提示し、次年度の学校運営のあり方について協議する場をもっている。		
		(184)自己点検・評価に必要な基礎データ等の整備がなされている	○									
		(185)自己点検・評価を定期的に実施している	○									
		(186)自己点検・評価の結果を公表している	○									
		(187)評価を次年度に活かし改善している	○									
		(188)外部評価者の規準が明確である。	○									